

第65回基本方針策定タスク 議事録

1. 日 時：令和2年3月3日（水） 9:15～12:10

2. 場 所：日本電気協会 4階 A会議室

3. 出席者：（順不同，敬称略）

出席委員：阿部主査(NUSC 幹事/東京大学)，越塚(NUSC 委員長/東京大学)，高橋(NUSC 副委員長/電力中央研究所)，波木井(NUSC 委員/東京電力 HD)，山田(構造分科会幹事/中部電力)，山内(原子燃料分科会幹事/東京電力 HD)，渡邊(品質保証分科会幹事/原子力安全推進協会)，白井(耐震設計分科会幹事/原子力エネルギー協議会)，大浦(放射線管理分科会幹事/日本原子力発電)，都筑(日本電気協会) (10名)

欠 席：牛島(安全設計分科会幹事/関西電力)，大平(運転・保守分科会幹事/日本原子力発電) (2名)

事務局：三原，須澤，小平，岸本，平野，葛西，寺澤，境，大村，田邊(日本電気協会) (10名)

4. 配付資料

資料 65-1	原子力規格委員会 基本方針策定タスク委員名簿
資料 65-2	第 64 回基本方針策定タスク議事録 (案)
資料 65-3-1-1	原子力規格委員会 活動の基本方針の改定について
資料 65-3-1-1 添付 1	原子力規格委員会 活動の基本方針 新旧比較表
資料 65-3-1-1 添付 2	新 JESC の概要について
資料 65-3-1-1 添付 3	原子力規格委員会 活動の基本方針
資料 65-3-1-2	2019 年度活動実績及び 2020 年度活動計画 (案)
資料 65-3-1-3	2020 年度各分野の規格策定活動
資料 65-3-2	第 7 回原子力規格委員会シンポジウム プログラム (案)
資料 65-4-1	令和元年度原子力規格委員会功労賞選考結果
資料 65-4-2-1	学協会規格ピアレビュー報告書の概要
資料 65-4-2-2	2019 年度学協会規格ピアレビュー試行結果 整理表 (案)
資料 65-4-2-参考 1	学協会ピアレビュー試行 現地レビューまでの進捗状況について
資料 65-4-3-1	JEAC4206-2016「原子炉圧力容器に対する供用期間中の破壊靱性の確認方法」他 1 件の技術評価対応状況について
資料 65-4-3-2	第 5 回原子炉圧力容器に対する供用期間中の破壊靱性の確認方法の技術評価に関する検討チーム
資料 65-4-4-1	第 11 回新規要件に関する事業者意見の聴取に係る会合(技術評価優先順位)について
資料 65-4-4-2	第 11 回新規要件に関する事業者意見の聴取に係る会合
資料 65-4-5-1	引用規格の正誤表の技術評価に係る関係規則解釈等の整備及びこれらに対する意見募集の実施について(令和元年 11 月 20 日原子力規制委員会資料抜粋)
資料 65-4-5-2	引用規格の正誤表の技術評価に係る関係規則の解釈等の整備及びこれらに対する意見募集の結果について(令和 2 年 1 月 15 日原子力規制委員会資料抜粋)
資料 65-4-6	検査制度の見直し等に伴う規格の制・改定の検討状況について (報告)
資料 65-4-7	2019 年度各分科会活動報告
参考資料 1	第 73 回原子力規格委員会 議事録 (案)
参考資料 2	2018 年度活動実績及び 2019 年度活動計画 (案)
参考資料 3	2019 年度各分野の規格策定活動

5. 議事

事務局から、本会にて、私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律及び諸外国の競争法に抵触するおそれのある活動を行わないことを確認の後、議事が進められた。

(1) 定足数確認他

事務局から、配付資料の確認があった後、出席者の確認時点で、出席委員は10名で、決議に必要な条件(委員総数の3分の2(8名)以上の出席)を満たしていることを確認した。

(2) 前回議事録確認

事務局から、資料65-2に基づき、前回議事録の説明があり、一部修正のうえ承認された。
・P5(4)1項了承→功労賞。

(3) 審議事項

1) 原子力規格委員会活動の基本方針の改定及び2020年度活動計画,各分野の規格策定活動について【審議】

事務局から、資料65-3-1-1及び3-1-2,3-1-3に基づき、原子力規格委員会活動の基本方針の改定及び2020年度活動計画,各分野の規格策定活動の説明があった。

審議の結果、活動の基本方針及び各分野の規格策定活動(外部事象安全設計分野)については、委員へのコメント依頼を行い、修正後、原子力規格委員会に提案することで承認された。

(説明内容)

- ・活動の基本方針の改定について、規格の品質向上要求や学協会規格高度化WGの中間報告の状況を反映し改定する。また、日本電気技術規格委員会(JESC)の体制変更に伴い原子力専門部会を廃止することから、日本電気技術規格委員会との協調の記載を削除する。
- ・各分科会別に規格の2019年度活動実績,2020年度活動計画について説明を実施。
- ・本改定については、3月30日の原子力規格委員会で承認を得ることとする。

(主な意見・コメント)

○活動の基本方針

- ・今回の活動の基本方針の改定は、事前説明の際に、各分野の規格策定活動の上位文書の変更も必要ということで事務局に検討いただいたものであるが、委員の方は初見なので、少し時間をかけて見ていただきコメントをもらうこととしたい。

→各委員に資料を送付するので、3月10日までにコメントをいただきたい。

- ・規格類協議会,高度化WGとの関係をどう考えるのか。もう少し書き方を工夫した方がよいと思う。高度化WGの活動を注視するのが重要ではないのでは。

→今後、高度化WGの活動が継続するということであったので、注視するという記載にした。

- ・各分科会の活動計画とリンクしているかということもある。

- ・「新検査制度に対応した」という言葉は必要か。新検査制度に関わりなく、自主的安全性向上のためにはリスクインフォームドの考え方を取り入れるのではないか。

- ・新検査制度を入れた趣旨は、従来各分野は毎年見直しているのが、全体方針も毎年変更した方がよいというコメントを受けてということか。

→基本方針はこれまであまり変更していなかったが、昨今の動静をNUSCの方針としても入れることというコメントをいただき、今後毎年見直していくということとなった。

このことから、新検査制度が本格運用され、今後も新検査制度に対応した規格の整備を引き続き実施するというので、「検査制度に対応した」という文言を入れたものである。

- ・高度化 WG の報告書がまとめられると思うが、分科会、検討会に紹介してもらわないといけない。
- それについては別途検討することとしたい。
- ・分科会、検討会への説明はどうか。現状 WG 報告書もなかなか固まらない状況で、途中段階でいいのであれば情報として提供することはできるが、方向性が定まっていない状況で行うべきか。
- 規格を策定する体制をどうするかという点はあるが、一方、耐震・保守についてはリスクを入れていくという考え方はあまり大きく変わっていないと思う。また、耐震では地震工学会との連携を言われているのであるから、そのところのコネクションも考えて、末端の方まで知っておいていただくというのはいいのではないかと思う。
- ・JEAC4601 で言うと、規制基準の中に確率論というのが入っておらず、ボトムアップ的に民間規格として取り入れて、先進的なものを作って、規制がそれを取り入れるという構成としていくという方針がなかなか伝わらない。
- そういう基本的な方針を示していただくと、5年10年後にどういう風な規格にしなければならないのかを見極めていただけるようになると思う。今までは決定論的な規制基準に適合すればいいという考えでしか行ってこなかったが、方向性を変えようということをよく理解していただかなければならないと思っている。
- 今後の進め方については、分科会幹事の方々と打ち合わせさせていただき、対応していきたいと思う。
- ・重要な意見であり電気協会以外や上位の委員会で考えられていることが、下位に伝わっていない、または下位の意見が上位につながっていないというのはあると思うので、上位のところでは意思疎通をやりますということを書くのは重要なことだと思う。
- ・本日の意見を参考に事務局として案を作成することとし、その他の意見がありましたら3月10日目途でご意見をいただきたい。
- 別途、本日の資料を送付いたしますのでご意見をいただきたい。

- ・JESC について、規格策定のプロセスについて評価機関が評価することになっているが、規格策定プロセスについて国が定めているのか。
- 評価機関の要件ということで、その中にどういうプロセスを取りなさいという方針が記載をされている。具体的な要件については3月末までに国から示される予定であり、それに合致した組織であることを見ていただいて認定をいただくこととなっている。
- ・電気協会のプロセスを見られるのか
- 技術的な評価とプロセスの評価の2つが見られる。

- ・P6の品質保証分野の記載に関して「廃止措置段階」もあることから記載の追加が必要である。
- 追記する。

○2019年度活動実績及び2020年度活動計画（案）

- ・JEAC4604とJEAC4620との関係で、JEAC4604側では4620との統合を記載しているが、4620側では書いていないのはなぜか。
- 両方の検討会で統合の話はしているが、4620が現在改定中であり、現在の改定が終了した後に統合の具体的な調整をすることとしている。
- したがって、今回の規格委員会に上程する範囲では、統合の話は記載していない。
- ・JEAC4805の記載で「ANSIi」と記載しているが、小文字の「i」は必要か。確認して修正が必要であれば修正のこと。（後日、「ANSI」であることを確認した。）

○2020 年度各分野の規格策定活動

- ・各分野の規格策定活動の 5.4.8「その他」の部分の変更の趣旨は何か。
- 内部溢水については、安全設計分科会で所掌することとなっていることからその旨を記載。一方、外部火災については所掌がまだ決まっていない。
- ・5.4.8 は、検討すべき事項ではあるが所掌が決まっていないものを書いている。このことから、内部溢水については所掌が決まり、5.4.1 の安全設計検討会側で内部溢水について記載していることから、5.4.8 の方では内部溢水についての記載は削除することでよい。書きぶりは少し工夫していただきたい。
- 記載については変更する。

2) 第 7 回原子力規格委員会シンポジウムのプログラムについて【審議】

事務局から、資料 65-3-2 及び追加資料に基づき、シンポジウム開催概要の説明があった。議論の結果、シンポジウムについては一部修正、シンポジウムを中止するかの判断は、3 月下旬の状況を見て決定することで承認された。

(説明内容)

- ・資料 65-3-2 により、シンポジウム プログラム案について、実施日を 2020 年 6 月 15 日、会場を時事通信ホール（時事通信ビル 2 階）に決定したこと、および、懇親会については同ビルの 13 階で実施する計画である説明した。
- ・シンポジウムの進め方として、ショートプレゼンテーションを 15 分見込むこととした旨を説明した。
- ・一方、最近の新型ウィルスの影響を考慮し、6 月 15 日のシンポジウムの開催の可否について、今後の準備作業スケジュール等を踏まえ、委員のご意見をうかがった。
なお、6 月 15 日のシンポジウムを中止した場合でも、功労賞の表彰式は 6 月度原子力規格委員会に実施することとしたい旨説明した。

(主な意見・コメント)

- ・提示されたパネルディスカッションの進め方の内容であると、規格類協議会で議論しているような各学会の所掌をどうするかという議論になる。その話になると高度化 WG の議論がそこまで進んでいないので、議論がうまく進まない可能性もある。
- ・現状、事業者、規制側とも従来の考え方から抜け出せない状態にあり、新検査制度を本当に活かすためにはどうするかというところが欠落しているように思える。6 月時点では規格のあるべき姿というテーマにどこまでマッチできるかわからない。
- ・各学協会の所掌で何の規格を作るかという議論よりも、学協会一緒になってクオリティの高い規格を作っていく努力をしているということをアピールすべき。
- ・耐震の活動計画の中で話のあった取り組みはシンポジウムで紹介すべきであり、規制の先を行くか、また規制を変えていこうというチャレンジングな活動を行っているというのを主張するのがよい。
- ・シンポジウムのゴールと示している(3)原子力安全は、一番初めに來るべきで、安全原則をどう掘り下げて各学協会で行き詰るかその方向に持っていくことになると思う。
- 今回は、体制や役割分担に踏み込んだ話は、WG 側の状況もあり 3 学協会とも明確なビジョンをもっていないと思われるため、全体として収束はできないと思われる。今後規格として、チャレン

ジグなどところも含めてどういう風に取り組んでいくかということを話題にすることも考えられる。

- ・今後の規格の取り組みについては、基調講演の電気協会の説明のところ、哲学も含めて盛り込んで、こういう考え方で進めていますと言って、それに繋げてパネルでは、電気協会の説明をベースに、安全原則を守るというフィロソフィーを基本として、どういう風にお互いに考えていくのか、その中で規格はどうあるべきなのかという議論につなげていくのがいいのではないかと。
- 今回いただいたコメントをもとに、もう少し事務局で考えてみます。

- ・シンポジウムを開催するか否かについては、6月開始なのだから、3月末の状況を確認し決めれば良いと考える。3月末には4月以降の状況が見えてくると思う。
 - ・準備のための資機材の発注時期のリミットはいつごろになるのか。その時期まで様子を見て決めるのも良いと考える。
- 資機材などは4月下旬でも間に合うと考えるので4月中旬まで様子を見る方向もある。
- ・どこの団体も3月末の状況を見て開催の是非を決めるところが多い、4月以降は新しい対応方法が出てくるはずだ。それを踏まえての判断でよいのでは。
- 以上のご意見から、当面は計画通り、シンポジウム開催として準備を進めることとし、3月30日の原子力規格委員会では、シンポジウム計画案を提示する。
- 原子力規格委員会の了承が得られれば、正式に規制庁等へ人選等のお願いを出すこととする。ただし、状況により計画変更があることを付け加えておく。
- 実施の可否については、3月末または4月初旬に状況を見て検討することとする。

(4) 報告事項

1) 令和元年度原子力規格委員会功労賞選考結果について【報告】

事務局から、資料 65-4-1 に基づき、第 16 回表彰審議会において 5 名が功労賞に選出されたとの報告があった。

(説明内容)

功労賞の選考結果について、本内容で 3 月 30 日の原子力規格委員会に報告する。

2) 原子力関連学協会企画類協議会 ピアレビュー結果について【報告】

事務局から、資料 65-4-2-1, 65-4-2-2 に基づき、ピアレビューの進捗状況について報告があった。

(説明内容)

- ・12月26日に、レビューチームからホストの原子力学会標準委員会の委員長に報告され、報告書が確定した。2月27日の規格類協議会幹事会、3月26日の規格類協議会に概要が報告される。
- ・今回のレビュー結果に対する電気協会としての対応を検討すべきではないかと考えることから、良好事例、推奨事項を整理表にまとめた。これを基に6月に電気協会として対応を資料 65-4-2-2 の形でまとめたいと考えている。

(主な意見・コメント)

- ・良好事例、推奨事項に対するまとめを行うことは、規格委員会の決定か。
- 6月度の規格策定方針タスクで、電気協会の状況の報告と課題に対する対応方針を決定したいと

考えている。

- ・この表自体は、3月度のNUSC報告の中に入るか。
- 3月度のNUSCでは入らない。資料65-4-2-1の概要報告のみと考えている。
- ・今回、電気協会としても対応方針を検討していくということを意思決定したので、資料65-4-2-1の形で整理していくことを報告しておく必要がある。ただし、整理票は代表的なものでもよい。レビューアの意図も確認しているなど、よい事例でもある。
- 了解した。

3) JEAC4206 他1件の技術評価対応状況について【報告】

資料65-4-3-1に基づき、技術評価会合に関する対応状況について報告があった。

(説明内容)

- ・規制庁から技術評価書(案)が提示されたが現在作業中の位置づけであり、まだ質問形式の表記が残っており、今後の会合で議論し最終的に評価結果を記載していくとのこと。電気協会としては、コメントを集約し提出する予定。
- ・第6回検討チーム会合を2020年3月23日に実施することが示された。
- ・技術評価書(案)の記載趣旨を確認するため、第6回検討チーム会合の前に面談を申し入れ、現在調整中

(主な意見・コメント)

- ・本件いつごろ終了する予定なのか。
- NRAは第6回検討チーム会合で終了としたいと考えている。
- ・検討チームの数は何人ぐらいなのか。
- 外部専門家3名+JAEA2名。

4) 技術評価優先順位に係る意見聴取会合について【報告】

事務局から、資料65-4-4-1に基づき、規格の検討状況について報告があった。

(説明内容)

- ・2020年2月7日に第11回新規制要件に関する事業者意見の聴取に係る会合が実施され、電事連から技術評価を要望する規格が出された。
- ・同会合で3学協会に対して、技術評価を行うに当たっての参考意見の聴取が行われた。
- ・電気協会からは、以下の点について考慮いただくよう要望した。
 - ・改定作業中の3規格(JEAC4201, JEAC4111, JEAC4601)については、審査状況により発刊のスケジュールに変更があること。
 - ・技術評価開始に当たっては、体制構築、資料準備があるため開始時期を調整させていただきたい。特にJEAC4601耐震関係は体制構築等も考慮し、十分な準備期間を考慮していただきたいこと。
 - ・発刊済み規格(JEAC4203, JEAG4217)については、同一分科会(構造分科会)の対応であるため、技術評価時期が重複しないように考慮いただきたいこと。

(主な意見・コメント)

- ・特になし。

5) 引用規格の正誤表の技術評価について(報告)

事務局から、資料 65-4-5-1, 65-4-5-2 に基づき、引用規格の正誤表の技術評価について、報告があった。

(説明内容)

- ・本件は機械学会の材料規格の正誤表に対する技術評価の際に確認された案件で、誤った正誤表の発行を行った事例であり、参考情報として説明する。
- ・経緯として、規制庁がエンドースした規格に対する正誤表を確認していたのだが、1 つだけ妥当性が確認できないとして、正誤表を採用しないとの結論を出した。
- ・機械学会の調査では、2011 版策定時に誤った値が記載されていたが 2011 年度版発行時にこの誤りに気づき値を修正したものの、改定根拠書の修正を修正していなかった。その後、2017 年度の規格(2012 年度版(エンドース版))の全文誤記チェックで、改定根拠書が正しいかの確認を行わず誤った改定根拠書を基に正誤表を出してしまったものである。

(主な意見・コメント)

→電気協会においても、類似の事象発生の可能性もあることから、規格の改定や正誤表を発行する場合は、過去の調査をして、元のデータが正しいかどうかを確認しながら作業を行っていただくことが肝要であるとのことで、事例紹介した。

6) 検査制度の見直し等に伴う規格の制・改定の検討状況について(報告)

事務局から、資料 65-4-6 に基づき、検査制度の見直し等に伴う規格の制・改定の検討状況について、報告があった。

(主な意見・コメント)

- ・3 月の原子力規格委員会での制・改定は何件あるのか。
- 上程が 6 件、中間報告が 1 件の合計 7 件ある。

7) 各分科会活動報告(報告)

資料 65-4-7 に基づき、各分科会活動報告が行われた。トピックとしては、以下の通り。

a. 安全設計分科会：

- ・3 月 5 日に予定していた計測制御検討会は延期し、書面審議とした。

b. 構造分科会：

- ・3 月 3 日に予定していた第 59 回分科会は延期した。
- ・JEAC4201 の中間報告について、書面によるご意見伺いを実施。

c. 原子燃料分科会：

- ・3 月 3 日に予定していた原子燃料管理検討会は中止としメール等での審議で対応する予定。

d. 品質保証分科会：

- ・JEAC4111 については、3 月 30 日に上程の予定。

e. 耐震設計分科会：

- ・日本地震工学会から「原子力発電所の地震安全の原則」について説明を受け、来年度以降、体制を整えて検討を開始することとした。
- ・JEAG4601 の基準津波策定の取扱いについて検討し、次々回の改定で耐津波設計技術指針(JEAG4629)として分離(新規制定)する方針とした。

f. 放射線管理分科会：

- ・ JEAC4615 放射線遮蔽設計規程について公衆審査を終了し，発刊準備中。

g. 運転・保守分科会：

- ・ JEAC4209 保守管理規程/ JEAG4210 保守管理指針については，3月30日に上程の予定。
- ・ JEAG4102 緊急時対策指針については，国の原子力災害対策指針の改定が昨年12月から本年2月になったのを受け上程時期を2020年3月から2020年6月に変更する。

(5) 次回のタスク予定について

次回タスク（本会議）：6月8日（月）13時30分～ C会議室
事前説明：5月25日（月）13時30分～（東大※） ※タスク後再調整指示による

以 上